

小さな大学博物館の 大きな可能性

小島 摩文 (こじま まぶみ)

鹿児島純心女子大学附属博物館副館長



鹿児島純心女子大学
附属博物館 / 日本

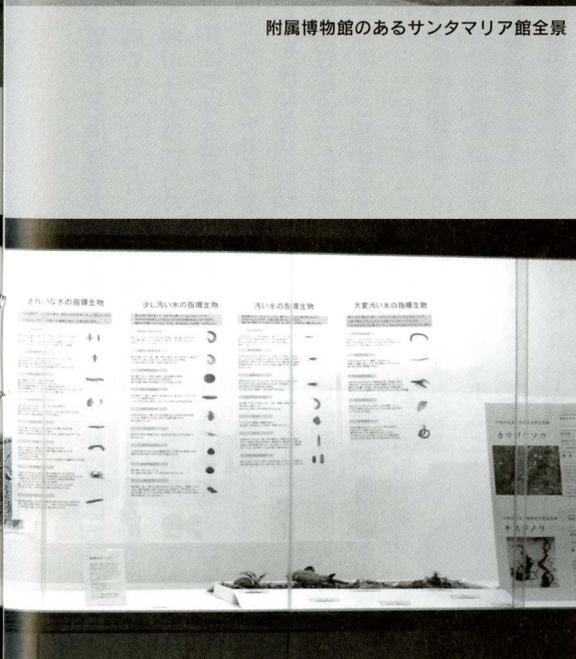
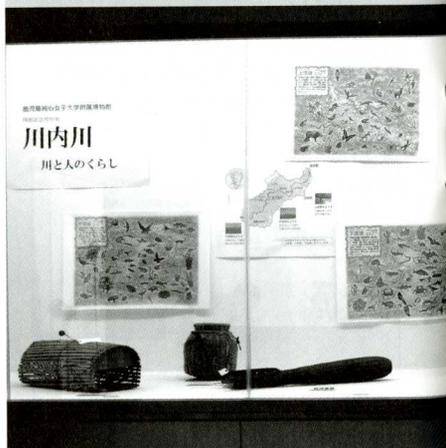
芸員の協力により展示することができた。
博物館実習Ⅰの履修学生の自主企画による「川内川の生物」全国のカップ」などの展示も半年の準備を経て展示することができた。ルースアライアンスのような協力関係のなかで本館のような小さな大学の附属博物館でもグローバルな視野に立った展示が可能となった。二〇一〇年度に予定されている川内歴史資料館と宮之城歴史資料センターと本館とのルースアライアンス展示の企画も準備段階に入った。学生や地域を巻き込みながら外に開かれた大学博物館を目指していきたい。

入り口から展示室を見たところ



附属博物館のあるサンタマリア館全景

展示導入部。
水棲生物の模型も学生の手作り



鹿児島純心女子大学は一九九四年四月に開学し、現在、国際人間学部と看護栄養学部の二学部四学科、それに大学院があり、在学生約八〇〇人の若くて小さな大学である。鹿児島県内でもっとも流域面積の広い川である川内川がながれる薩摩川内市に位置し、鹿児島市からは在来線で五〇分、新幹線で一三分の距離にある。

これまで、「日本郷土玩具館」として図書館の一隅に郷土玩具を約二〇〇〇点展示してきたが、このたび、新校舎サンタマリア館に博物館機能を移転拡充することとなり、二〇〇八年九月に竣工した。展示室は一五五平方メートル、収蔵庫は五九・五平方メートル、このほか館長室、学芸実習室、作業実習室を備えている。

移転に伴って名称を「鹿児島純心女子大学附属博物館」に変更し、オープニング企画展として「川内川ー川と人のくらしー」展を大学祭の一〇月二五日より一カ月の会期で開催した。この展示は、民博とも連携して

進められた総合地球環境学研究所の研究プロジェクト（アジア・熱帯モンスーン地域における地域生態史の統合的研究）の成果発表のひとつ、ルースアライアンス展示として企画された。ルースアライアンス展示とは、巡回展のように同じ展示をもち回るのではなく、各博物館の学芸員などの企画担当者が共通のテーマのなかでそれぞれの博物館独自の企画展を展開していく展示である。二〇〇七年には天理大学附属天理参考館でルースアライアンス展示として企画展「モチゴメの国ラオスーメコン河流域の暮らしー」を開催した。

本展示では、この研究プロジェクトに参加していた鹿児島県歴史資料センター黎明館の川野和昭学芸課長の協力をえて、個人蔵のメコン川流域の漁具資料や黎明館収蔵の川内川の漁具資料をお借りして、メコン川の漁具と川内川の漁具を比較展示するなどこの研究の成果を生かした。また、地元の薩摩川内市川内歴史資料館の資料も、本学出身の出来久美子学